

3 外国の地名・人名の書き方(案)

(昭和21年3月)

文 部 省

文部省で編修又は作成する教科書や文書などの国語の表記法を統一し、その基準を示すために教科書局調査課国語調査室が編集した4編の資料の一つである。

(原文は縦書き)

本省で編修または作成する各種の教科書・文書などの国語の表記法を統一し、その基準を示すために、

- 一、送りがなのつけ方(案)
- 二、くぎり符号の使ひ方〔句読法〕(案)
- 三、くりかへし符号の使ひ方〔をどり字法〕(案)
- 四、外国の地名・人名の書き方(案)

の四篇を印刷に付した。この案はその一つである。

諸官庁をはじめ一般社会の用字上の参考ともなれば幸である。

(文部省教科書局調査課国語調査室)

外国の地名・人名の書き方に関する方針

- 一、外国の地名・人名(中華民国の地名・人名は除く)は、原則として片かなを用ひて書き、別表「外国の地名・人名を書くときに用ひるかな並びに符号の表」の範囲内で書く。
- 二、外国の地名・人名は、なるべくその国の称へ方によつて書く。
- 三、外国の地名・人名は、慣用の固定したものは、それに従つて書く。
- 四、外国の地名・人名は、発音しやすいやうに書く。

外国の地名・人名を書くときに用ひるかな並びに符号の表

ア	イ	ウ	エ	オ	リャ	リュ	リョ		
カ	キ	ク	ケ	コ	ギャ	ギユ	ギョ		
サ	シ	ス	セ	ソ	ジャ	ジュ	ジョ		
タ	チ	ツ	テ	ト	ビャ	ビユ	ビョ		
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ピャ	ピユ	ピョ		
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ			イエ		
マ	ミ	ム	メ	モ		ウイ	ウエ	ウォ	
ヤ		ユ		ヨ			ウユ		
ラ	リ	ル	レ	ロ	クワ				
ワ							シエ		
ン							チエ		
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ツア		ツエ	ツォ	
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ		テイ			
ダ			デ	ド			トウ		
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	ファ	フィ	フェ	フォ	
パ	ピ	プ	ペ	ポ			フユ		
キャ		キュ		キョ	グワ				
シャ		シュ		ショ			ジェ		
チャ		チュ		チョ		デイ			
ニャ		ニユ		ニョ			デュ		
ヒャ		ヒユ		ヒョ			ドウ		
ミャ		ミュ		ミョ	ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ

ッ (促音符号)

ー (長音符号)

備 考

外国の地名・人名の称へ方・書き方を整理統一するには、称へ方は、原則としてその国の称へ方によるのがよいことは言ふまでもない。しかし、すでに慣用の久しいものは、これを認めて行かなければならない。ただ、それをどの程度まで認めるかといふことに考慮の余地がある。「イギリス」「ギリシア」「デンマーク」「レントゲン」などのごときは、原語、原音を離れたものではあるが、すでに広く用ひ慣れてゐるので、この称へ方を認める。「レントゲン」のごときは、同時に原語、原音による「レンチェン」といふ称へ方が一部に行はれてゐるが、慣用の広い「レントゲン」の方を取る。

原音に近く書き表はすとしても、それに用ひるかなは、一般の国民に発音しやすいものにとどめる。また、「イ」「エ」「オ」,「ジ」「ズ」と同じ音の「キ」「エ」「ヲ」,「チ」「ツ」などのかなは用ひることをやめ、精密に書き表はすときには、「ウィ」「ウェ」「ウォ」,「ディ」「ドゥ」とする。「ヴ」は、従来かなり広く用ひてゐるので、必要に応じて採用する。

撥音を書き表はすとき、「オリムポス」「ゼムメリング」などのごとく、「ム」を用ひる書き方も行はれてゐるが、この案では、「ム」は用ひないで、「ン」を用ひる。

長音を書き表はすとき、従来「ヨーロッパ」「ヨオロッパ」,「ソシユール」「ソシユウル」などが行はれてゐるが、最も普通に広く行はれてゐる長音符号「ー」を採用することとする。したがつて、「ガレリウス」「コメニウス」などと書けば、「リウ」「ニウ」は、分けて発音する。

促音を書き表はすときは、慣用に従つて右側下に「ッ」を書くこととし、「ツ」と区別する。

この書き方は、漢字平がな交り文における書き方である。

この書き方によつた外国の地名・人名の例 (アイウエオ順)

アイゼナハ	Eisenach	「アイゼナッハ」とは書かない。
アインSTEIN	Einstein	ドイツ語の st の s は、「ス」と書く。
アウグスチヌス	Augustinus	ギリシア語・ラテン語などの ti, tu は「チ」「ツ」と書く。
アクチウム	Actium	
アグリゲンツム	Agrigentum	
アジア	Asia	語末の(i)a は「ア」と書き, (y)a は「ヤ」と書く。
アリスチデス	Aristeides	ギリシア語の ei は、「エイ」と書かないで、「イ」と書く。
アリストテレス	Aristoteles	ギリシア語・ラテン語などの長音は書き表はさない。したがつて、「アリストテレス」などとは書かない。
アルゼンチン	Argentine	慣用による。
アルヘンティーナ	Argentina	
アレクサンドロフスク	Alexandrovsk	スラヴ語などの vsk, vski などの v は、「フ」と書く。
アンチオキア	Antiochia	
イエス	Jesus	
イェーツ	Yeats	
イェーリング	Jhering	
イタリア	Italia	「イタリヤ」とは書かない。
イブセン	Ibsen	
ヴァチカン	Vatican	
ヴィクトリア	Victoria	
ウィクリフ	Wycliffe	
ウィッテンベルク	Wittenberg	ドイツ語の語末の berg, burg の g は、「ク」と書く。
ウィルソン	Wilson	

ウィンデルバンド	Windelband
ヴェルサイユ	Versailles
ウェルズ	Wells
ウェールズ	Wales
ウェルフリン	Wölfflin
ヴォルテール	Voltaire
ヴォルムス	Worms
ヴェルテンベルク	Württemberg
ウルグワイ	Uruguay
ウルフ	Wulff
ヴント	Wundt
エウクリデス	Eukleides
エクアドル	Ecuador
エジソン	Edison
エチオピア	Ethiopia
エニセイ	Yenisei
オーストラリア	Australia
オリンポス	Olympos
オロヤ	Oroya
カイザーリング	Kayserling
カヴェーニャック	Cavaignac
カトマンドゥー	Katmandu
カーライル	Carlyle
ガレリウス	Galerius
ギリシア	Greece

ドイツ語の語末の d は、「ト」と書く。

ドイツ語の語頭の w は、「ワ」「ウイ」「ウ」「ウエ」「ウォ」などのごとく書く。

ギリシア語の ei は、「エイ」と書かないで、「イ」と書く。

「オリムポス」とは書かない。

語末の(y)a は「ヤ」と書く。

ドイツ語の語末の ing の g は、「グ」と書く。

ギリシア語・ラテン語などの(i)us は、「ウス」と書いて、長音符号を用ひない。

キンバリー	Kimberley
グリルパルツァー	Grillparzer
グレー	Gray
グレー	Grey
クァケルナク	Quaekernack
ケーザル	Caesar
ケニーヒスベルク	Königsberg
ケニア	Kenya
ケンブリッジ	Cambridge
コメニウス	Comenius
ゴールズワージー	Galsworthy
ゴンサルボ	Gonsalvo
サッカレー	Thackeray
ザラツストラ	Zarathustra
サルジニア	Sardinia
シエイエース	Sieyès
シェークスピア	Shakespeare
シエラ・ネバダ山脈	Sierra Nevada
シェリー	Shelley
ジェンナー	Jenner
シャルロア	Charleroi
シュニッツラー	Schnitzler
ジュネーヴ	Genève
ショー	Shaw
ショーペンハウアー	Schopenhauer
スタンリー	Stanley

英語の ley は、「リー」と書く。

ドイツ語の語末の er は、「アー」と書く。

英語の ray, rey は、「レー」と書く。

ギリシア語・ラテン語などの長音は書き表はさないが、「ケーザル」「ローマ」は、慣用により長音に書く。

ドイツ語の語末の berg, burg の g は、「ク」と書く。

イスパニア語などの v には、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用ひる。

英語の ray・rey は、「レー」と書く。

イスパニア語などの v には、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用ひる。

フランス語の oi は、「オア」と書く。

ドイツ語の語末の er は、「アー」と書く。

英語の ley は、「リー」と書く。

ストラウス	Strauss	ドイツ語の st の s は、「ス」と書く。
セルバンテス	Cervantes	スペイン語などの v には、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用ひる。
ゼンメリング	Sömmering	「ゼムメリング」とは書かない。
ソアソン	Soissons	フランス語の oi は、「オア」と書く。
ソクラテス	Sokrates	「ソークラテース」などとは書かない。
ダーウィン	Darwin	
タキツス	Tacitus	
ダンチヒ	Danzig	
タンネンベルク	Tannenbergr	
チェンバレン	Chamberlain	
チャンネル諸島	Channel Islands	nn, mm などには、慣用により、「ン」を加へることがある。
チュードル	Tudor	
チリ	Chile	
ツァポリヤ	Zapolya	
ツェッペリン	Zeppelin	
ツォルンドルフ	Zorndorf	
ツルゲニエフ	Turgenieff	
ディケンズ	Dickens	ti, tu, di, du などは、精密には「テイ」「トゥ」「ディ」「ドゥ」と書き、chi, zi などは、「チ」と書く。
ティチアーノ	Tiziano	
テオドゥル越	Théodule Pass	
デューイ	Dewey	
デュプレックス	Dupleix	
トゥーニス	Theunis	
ドルトムント	Dortmund	ドイツ語の語末の d は、「ト」と書く。
ナハチガル	Nachtigal	「ナッハチガル」とは書かない。
ニカラグワ	Nicaragua	
ニューヨーク	New York	

ハックスリー	Huxley
バセドウ	Basedow
ハーディー	Hardy
バッハ	Bach
パラグワイ	Paraguay
ハンブルク	Hamburg
ビザンチウム	Byzantium
ビュッフオン	Buffon
ヒューム	Hume
ファーブル	Fabre
ファン・アイク	Van Eyck
フィウメ	Fiume
フィリピン	Philippine
フィルヒョー	Virchow
フェービアン	Fabian
フューネン	Fünen
プラトーン	Platon
ペテロ	Petros
ペートル大帝	Pëtr
ヘラクリトス	Herakleitos
ヘルダー	Herder
ポアンカレ	Poincaré
ホイートストーン	Wheatstone
ホイットニー	Whitney
ホイットマン	Whitman
ホーエンツォレルン	Hohenzollern
ホラチウス	Horatius
ホルバハ	Holbach

「ホルバハ」「ライヘンバハ」は、「バッハ」と書かない。

「プラトーン」などとは書かない。

ドイツ語の語末の er は、「アー」と書く。

フランス語の oi は、「オア」と書く。

英語の whea, whi などは、「ホイ」のごとく書く。

「ホルバッハ」とは書かない。

ボリビア	Bolivia
マホメット	Mahomet
マルセーユ	Marseille
マレー	Murray
ムリリョ	Murillo
モスクワ	Moskva
ライヘンバハ	Reichenbach
ラヴォアジエール	Lavoisier
ユスチニアヌス	Justinianus
ルクセンブルク	Luxemburg
ルーズベルト	Roosevelt
ルター	Luther
ルノアール	Renoir
ロシア	Russia
ロズ	Lodz
ローマ	Roma
ロマノフスキー	Romanovski
ワイマール	Weimar
ワーズワース	Wordsworth

イスパニア語などのvには、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用ひる。

英語の ray, rey は、「レー」と書く。

「ライヘンバッハ」とは書かない。

ドイツ語の語末の er は、「アー」と書く。

慣用により「ローマ」と長音に書く。

この案の作成にあつては、関係諸官庁・諸団体及び学界、特に市河三喜・今井登志喜・内田寛一・亀井高孝・辻村太郎・松本信広・村川堅固・山中謙二（アイウエオ順）の諸氏の御協力をわづらはした。